

地区大会への希望・意見

ここにご紹介する各バストガバナーの地区大会に対する希望・意見は、昨年12月23日、岐阜における第3回ロータリー研究会（ガバナー、バストガバナー、ガバナーノミニーによる）で黒田政文PGが報告した「地区大会・地区協議会」から抜粋したものです。黒田PGはこ

直木 太一郎（神戸）

1. 色々な問題を論議し決議を行ないRIへの要望を出すこと。

2. ほとんど会員（男子）ばかりの出席で懇親会の意味をなしていない。（昔は半分が家族でロータリーらしい懇親ができた。）

松本 兼二郎（東京）

もっと簡素な、金のかからない大会にしなければならぬ。

村上 正徳（福島）

1. 小都市の場合一地方色を盛り込み丁寧にする。

2. 中都市の場合一講演、シンポジウム等研修課程に力を入れる。

3. 大都市の場合一前回の設営を反省し良きを生かし不良を除いての方針策。

4. 六大特別市の場合一簡素を旨とし質の向上を重点に置く。

齋藤 堅治（青森）

1. 小都市で主催するのは望ましいが負担が大きい、そこで地区大会を2、3年に一度位にし、その代りに一定の研究課題を設けて、フォーラムを行なう。また地区として全会員の参加する奉仕事業を主眼とする大会を望む。

2. ロータリアンのみの大会から脱却して、その一部を一般に開放（特別講演や余興等）することは広報をふくめて有意義である。

神守 源一郎（東京東）

もっと素材にもっとシンプルに、お祭りのなことは全部二日目にまわし別料金で賄う。

の報告をまとめるため各バストガバナーより地区大会、地区協議会についてアンケートを求めましたが、ここに掲載したのは、そのうちの「これからの日本における大会に対しての希望・意見（大会を小都市や小クラブでも引受けるようになることを考えて）」に対する回答です。

安野 譲次（一宮）

・1974年の356地区大会はモデルケースだった。

・もっとシンプルにする。

・もっと温かい友情が必要。

・登録は安く、つまらないタレント演芸はやめる。

・晩餐会やお土産は一考する必要あり。

・都会と地方と同じ考え方ではおかしいのでは。

佐野 保（仙台北）

今迄三沢市や川越市の様な小都市でも立派な年次大会が開かれている。今後も小都市から優秀なガバナーを選び年次大会を開き地方の人々にその活動をPRする。

神野 太郎（豊橋）

1. 主催地の特色を生かし考慮する。

2. 昼食、飲食物等は実費で提供する。

3. 晩餐は希望晩餐会とする。

4. 地区再分割の必要性。

5. 連合地区大会を時々催し、またその組合せを変えてゆけば知己も、見聞も深める。

島津 久厚（都城）

金をかけないこと、唯その際工夫しないと家族の参加が益々減ってくるだろうという矛盾があるのではないか。

吉村 常助（熊本）

1. 地区大会の原点に戻る。

2. 金をいたずらに、費用、人事費、会議等に使いすぎる。

3. 色々な懇親の会合をその機会に併せて開くようにする。

手島 周太郎（仙台南）

秋の大会はガバナーの準備期間が少ない。季節的に止むを得ないとすれば工夫、工夫、あるのみ。ガバナーノミニーの大会ホストクラブに対するリーダーシップを発揮するにはどうしたらよいか、でしょう。

向笠 広次（中津）

少ない費用で内容は充分あるようにするため、むだをはぶく。佐賀の場合、金のかからなかった女子高校生のダンス等は印象的だった。1974年の熊本は晩餐会を希望晩餐会にした。

佐々木 統一郎（塩釜）

ケチケチ大会をやる勇気ある田舎出身のガバナーが出て欲しいと思う。

前原 勝樹（桐生）

1. ガバナーの地区大会にしたい。

2. 思い切って地方色を出してほしい。

3. 形式的行事は縮める。

4. 分散協議会はやめる。

5. 非ロータリアンの講演は無意味。

原田 秀雄（大阪北）

経費をかけない、派手にやらない、晩餐会は希望者のみでやめてもよい。余興がいつも問題になる。

齋木 亀治郎（姫路）

日本の大会はぜいたく、みえをはる、形式にこだわる、金がかかり一見盛大に見えるが実がない。田舎の小さな町でいいから質素で本当に意義のある大会を望む。

秋山 康之進（札幌）

単一県が一地区となると視野が狭まくなる。

3年に一回位開催する必要がある。プログラムも家族共楽しめるようなものが欲しい。

伊藤 辰治（新潟）

町でやったことが2回ある。会員懇親会を廃止したことは良かった。今後はできるだけ公費節約で大会を持つべきだ。

塚本 義隆（大阪）

1. 地区大会という文字自体が悪い。

2. 出席者の量を求める必要はない、500～1000人で十分。RIがやかましくいうのは外国ではもっと少ないからである。

3. ぜいたくな食事や、プロへ払うギャラなどは廃止すべきだ。

4. 開催期は春に変えるべきである。

笠潤一郎（呉）

〔総括意見〕色々な会合は各クラブにプラスになるようにあるべきで、RIの手前とか、ガバナーのためにあるのではないと思う。ガバナーがもっと真剣に手続要覧、ガバナー必携或いはRIよりの適時の指示、推奨をよく勘案し調整をしつつ不断の努力をするべきである。また、印刷物は極度に簡素化すること、その印刷の関係上、時間的余裕がなく、重要事項が未充分のまま決定されると問題が後を引くのではないか。

日高 安壮（宮崎）

1. 小都会では宿泊、会場が問題。

2. 地区が県単位になれば解決するし、大都会の小クラブがやる方法がある。

3. セレモニーをかんたんにし、スタディを主体とする。

4. 地区大会を年に一度の懇親会的に考えてもよい。「何をやるか」は結局良識の問題。

河野 通正（深川）

段々小都市で行なわれることと思うが、北海道では各小都市において会場は整備されて来ましたが宿泊施設がこれに併行していない。また金をかけての充実？の意識が強いから更めなければならない。

（次頁へつづく）

絹川 清 (京都)

大会登録費と地区会員から徴収する大会分担金とで賄える様に厳格な予算統制を実施すること。
(ホストクラブに財政的負担を一切かけないこと)

末永 直行 (福岡西)

当然のことだが、もっと質素にして充実した内容で参加者に感銘を与えるものにしたい。ホストクラブの負担を最少限にしないと小さなクラブではとても引き受けられない。

青山 幸高 (市川東)

御夫人の出席を多くする工夫が必要であり、家族を含んだシンポジウムをすることが望ましい。1年1回のお祭り故公費は省くとしても余りケチケチしない方がよい。

小クラブがホストとなったときは同一分区内クラブが一体となって協力することが必要である。

尾形 繁之 (堺)

1. 経費を節約して実質的なプログラムを組む。
2. ホスト、コホストクラブに特別出費を出させ

ない。参加クラブと参加会員とが公平に負担する。

3. 会議、アトラクションの必要経費は簡素にする。アトラクションの豪華版を競うことなどは絶対にさけること。

小田 一昭 (熊本南)

1. 大会は豪華でなく質素を旨とすること。
2. 経費を極度に制限すること。

半田 利一 (浦和)

地方小都市においては大会用の施設は少ない。従って大会開催地はその地方の中央において重複開催するも止むを得ないと考える。ただしそのホストクラブの完全な独立主催こそ、その大会を特徴づけ意義づけるものであろう。

鈴木 達雄 (東京西)

1. 華美をさげ、素朴で、当面する現実問題に焦点を置けば如何 (人数は無理に集める必要なし)
2. 連合地区大会を開き (3年目位に) 盛大に行なう。経費はその地区全体でカバーする。